

新型コロナで定着するか非接触サービス

◆新型コロナによる外出自粛で多くの小売店が厳しい状態

2020年4月7日、新型コロナウイルスの感染症対策の「緊急事態宣言」が発令された。日本全体に外出自粛の要請が出て、百貨店や映画館、アミューズ施設など多くの店が閉店を余儀なくされている。日常生活に必要な買い物の現場では、感染対策として入店人数を制限し、レジにビニールシートを張り、2mの間隔で整列し、支払いではお金を手渡ししないなど、できる限りの非接触対応をしている。

◆ZEPPELINは新型コロナの影響で店舗休業し売り上げが立たない企業を支援

AR（拡張現実）マーケット事業を展開するZEPPELINは20年4月25日、新型コロナウイルスの影響で店舗の閉店などで売り上げが立たず、倒産の危機に追い込まれている企業100社に対し、自宅でARを活用した買い物ができる非接触販売サービス「ARaddin」を、無料で提供すると発表した。

「ARaddin」はスマートフォンのアプリで、カメラを通して映し出された部屋の中に、スニーカーなどの商品が映し出される。パクリューというキャラクターがナビゲーションをしてくれる。AR技術を使って3次元で商品を表示できるため、回転させてさまざまな角度から商品を確認することが可能になる。気に入った商品は指で触れかごに入れると買い物ができる（図1）。

食品や日用品、書籍などは、アマゾンや楽天などの従来型のネット通販（EC）の機能で十分である。一方、ファッションやインテリアなど、デザインや装着感、他のものとのバランスを
考える必要があるものについては、写真と文字の情報だけでは、購入を検討しづらく、リアル店舗に出かけて品定めした後、ECで購入している人も多い。そのような状況の中、スマホ画面であるが、商



図1 自宅でARを活用した買い物ができる「ARaddin」

出典：<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000025.000036631.html>

品を本物と近い立体的な形で表現できるAR技術が注目され始めている。必要なものが便利に買える、届くというだけでなく、自宅にいながら外出時と同じように楽しく買い物ができる点が特徴である。購入した商品は、アプリでロックが解除できる特殊な梱包箱を使い配達人に対面することなく安心して商品が受け取れる非接触対応をしているので、外出自粛にはもってこいの機能である。

◆テイクアウトの店舗支援も非接触対応

4月27日モバイル決済システムを提供するShowcase Gig（ショーケース ギグ）はスマートフォンアプリと連携して開閉するスマートロッカーを使って、飲食店の従業員と客とが接触せず商品を提供できる新サービスを開始した。

新サービス「0:der Locker」（オーダーロッカー）はテイクアウトの利用者がスマホアプリかウェブアプリで来店時間を指定し、事前に注文と精算を済ませる。精算完了後にロッカーを開けるための暗証番号（PIN）が利用者に届く。店は来店時間に合わせて商品を準備し、店頭で設置した専用のロッカーに入れる。客はロッカーの操作パネルにPINコードを入力すると、自動でドアが開き、商品を受け取れる（図2）。今後はQRコードの読み取りにも対応する。

本スマートロッカーはユーボが開発・提供している。店舗オペレーションをシンプルにして、接客・商品提供を自動化して、人によるミスをなくすために開発された。



図2 非接触型注文決済・受渡システム「0:der Locker」
出典：https://www.showcase-gig.com/news/covidbuster_oderlocker/

商品は非接触で受け取ることができるうえ、ロッカー内の照明には殺菌効果のある紫外線を使用しており、通常のロッカーのように密閉されていないので、臭いがこもることもない。

テイクアウト専用の店舗では、レジスタや注文を受ける店員も必要ないため、効率的なウォークスルーの店舗運営が可能となる。

このように、新型コロナウイルスで厳しい状況に追い込まれている店舗の支援活動としてさまざまな非接触技術を組み合わせたソリューションが登場している。新型コロナ対策が非接触技術定着の引き金になることを期待する。 【成田誠】